## V67a　南米ペルーの通信衛星用の３２ｍアンテナを電波望遠鏡に

○Jose Ishitsuka(国立天文台)、Mutsumi Ishitsuka (IGP)、Hugo Trigoso (IGP)、Shinji Horiuchi (JPL)、Kenta Fujisawa (山口大学)

ペルー電話局はアンデス山脈の海抜３３００ｍの盆地に衛星通信用の３２ｍアンテナを所有してる。INTELSATの規格変更とともに最近は衛星通信には使われていないという情報から、我らはこのアンテナの電波望遠鏡としての再利用の可能性を検討し始めた。ペルーには天文学者も少なく、電波天文学者がいない。しかし、このアンテナを再利用すれば、ペルーで電波天文を始め、また南米唯一の電波天文用 VLBI 局として世界の天文学に独自の貢献をすることが期待できる。

我々はまず手始めに去年６月にアンテナ・サイトを見学し、アンテナの保存状態が非常に良いことを確認した。その結果をもとに、ペルーの地球物理観測所にアンテナ所有について考え始めることを奨めるとともに、立ち上げ計画の作成、必要なコストの見積もり等を行った。それを受けて、ペルー地球物理観測所（IGP）は、経済的な負担の分担、ペルーでの電波天文学の育成などを考慮し、ペルーの大学及び研究機関と共に「ペルー電波観測所」設立の為のコンソーシャムを作り、この計画を進めていこうと体制作りを始めつつある。

本講演では本計画の概要、現状、およびその後の調査成果について紹介する。